

1 - 1 北海道地方の地殻上下変動

建設省国土地理院 地殻活動調査室

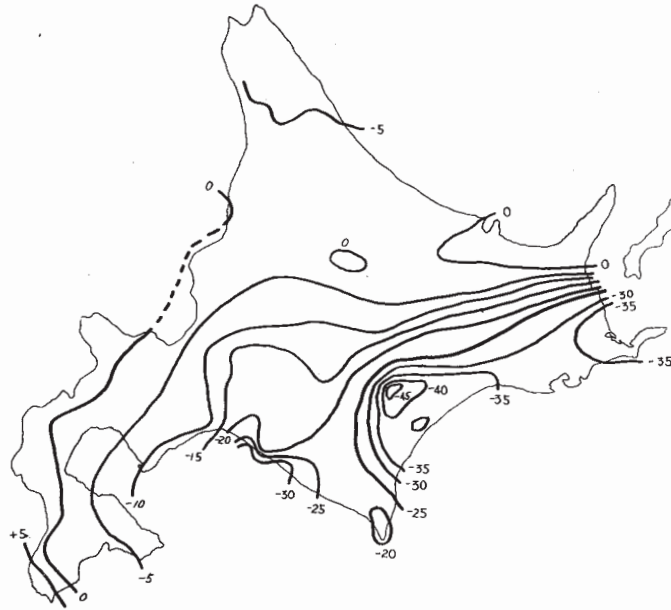
北海道地方の一等水準測量は1900年に第1回、1955年に第2回が実施され現在第3回が行なわれている途中であり来年には北部をのぞいた地域の最新の変動の様相が明らかになる予定であるので、今回そのための基礎資料として1955年～1900年の期間における変動を再計算し第1図に示した。北海道の不動点としては忍路験潮場の過去70年近くの記録が第2図から明らかな様にほとんど一定と見られるのでこの点を不動と仮定し計算した。第1図から明らかな様に北海道東南部の太平洋沿岸地帯が30cm以上の沈下を示しているのがきわ立った特徴であり、この現象は第2図の花咲、釧路の験潮記録とも傾向のみでなく量的にも一致している。北海道東部は連絡会報第2巻3～5頁に述べた如く地殻水平変動もほぼ海溝に直角方向に圧縮を受けており、海溝内陸側のエネルギー未解放地域（宇津委員による会報第2巻2頁第1図）に特徴的と考えられる地殻変動のパターンを示している点が注目される。

釧路-根室地域以外にも勇払平野、十勝平野の太平洋沿岸部も沈下が目立っている。しかしこれらの両沿岸部は短波長のブーゲー異常も負の地域で、日本の他の同様な地区とともに沈下を示すのも自然と見られるが、根室地区は+200mgalの正異常帯でこれが経年的に大きな沈下を生じているのは紀伊、室戸南端および関東南部における地震前の様相とよく似ている点で注目したい。

第1図 北海道地方上下變動図

期間：1955年 - 1900年

単位：cm



第2図 北海道驗潮記錄

